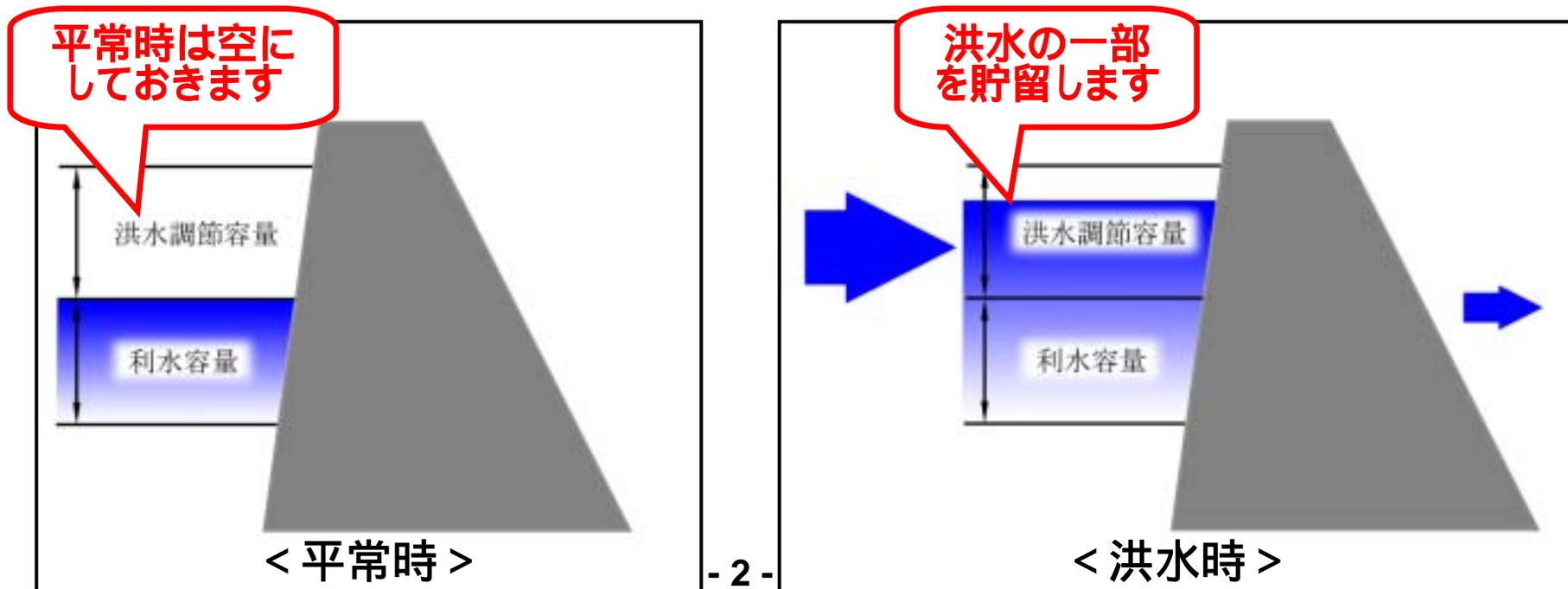


Q 大洪水のときは、ダムの決壊を防ぐために行われる**ダムからの大量放流により、下流の洪水被害が大きくなることはありませんか？**

A ダムが満水になった場合は、**ダムへの流入量をそのまま下流側へ通過放流する**ので、ダムにより洪水被害が大きくなることはありません。

ダムによる洪水調節の基本

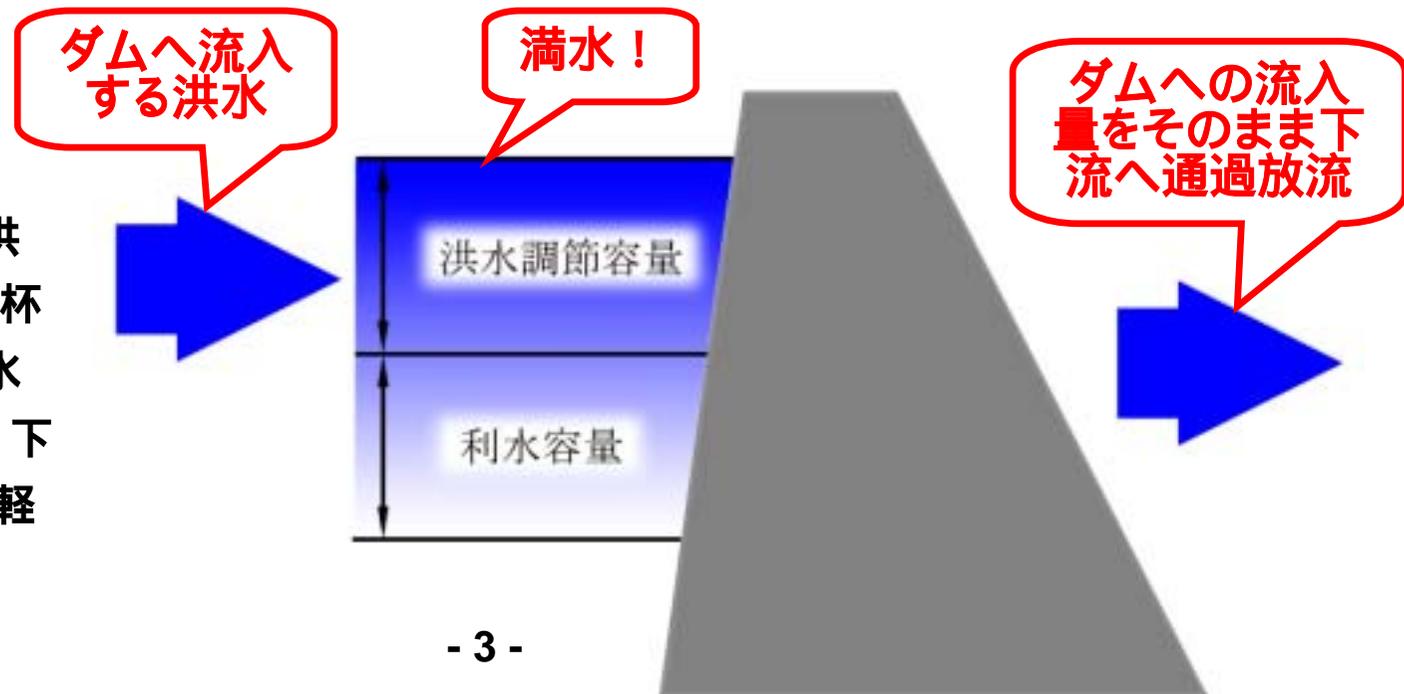
- ダムには利水のためなどの容量とは別に洪水調節のための容量が確保されています。
- 洪水期にはこの洪水調節容量を常に空にしておき、洪水が発生した場合、流入する洪水の一部をここへ貯留することにより、下流の洪水被害を軽減します。



ダムの洪水調節容量が満水になった場合

- ダムの洪水調節容量が満水となった場合には、**ダムへの流入量をそのまま下流側へ通過放流**します。
- しかし、急激に増水しないように緩やかに増水させる操作を行い、不測の事態を回避することとしておりますので、ダムがあることによって**洪水被害が大きくなることはありません。**

この場合でも、洪水調節容量が満杯になるまでは洪水を貯留するので、下流の洪水被害を軽減します。

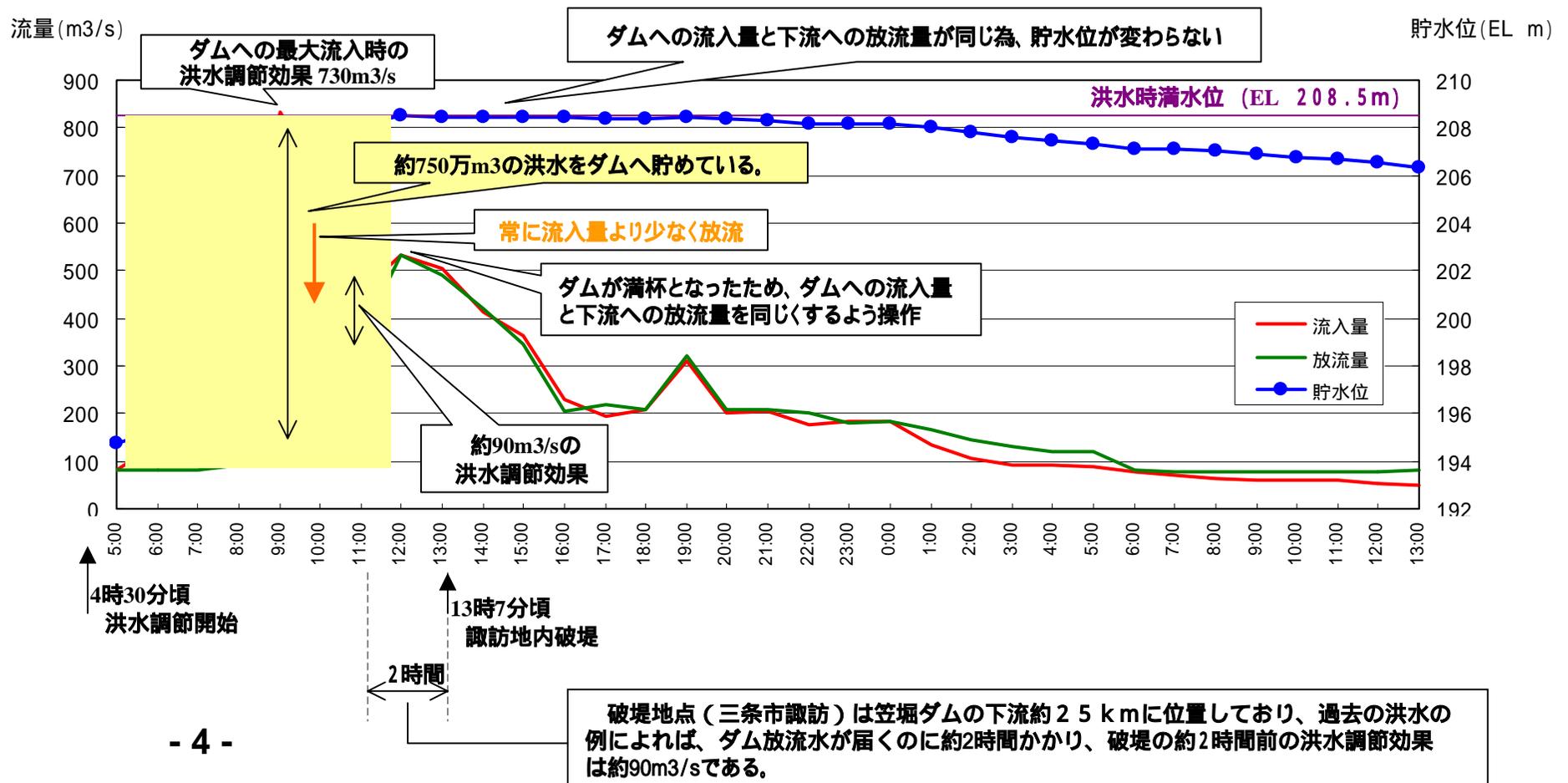


洪水調節容量が満水になっても被害軽減に寄与！

事例1 新潟県五十嵐川 笠堀ダム (平成16年7月 新潟・福島豪雨)

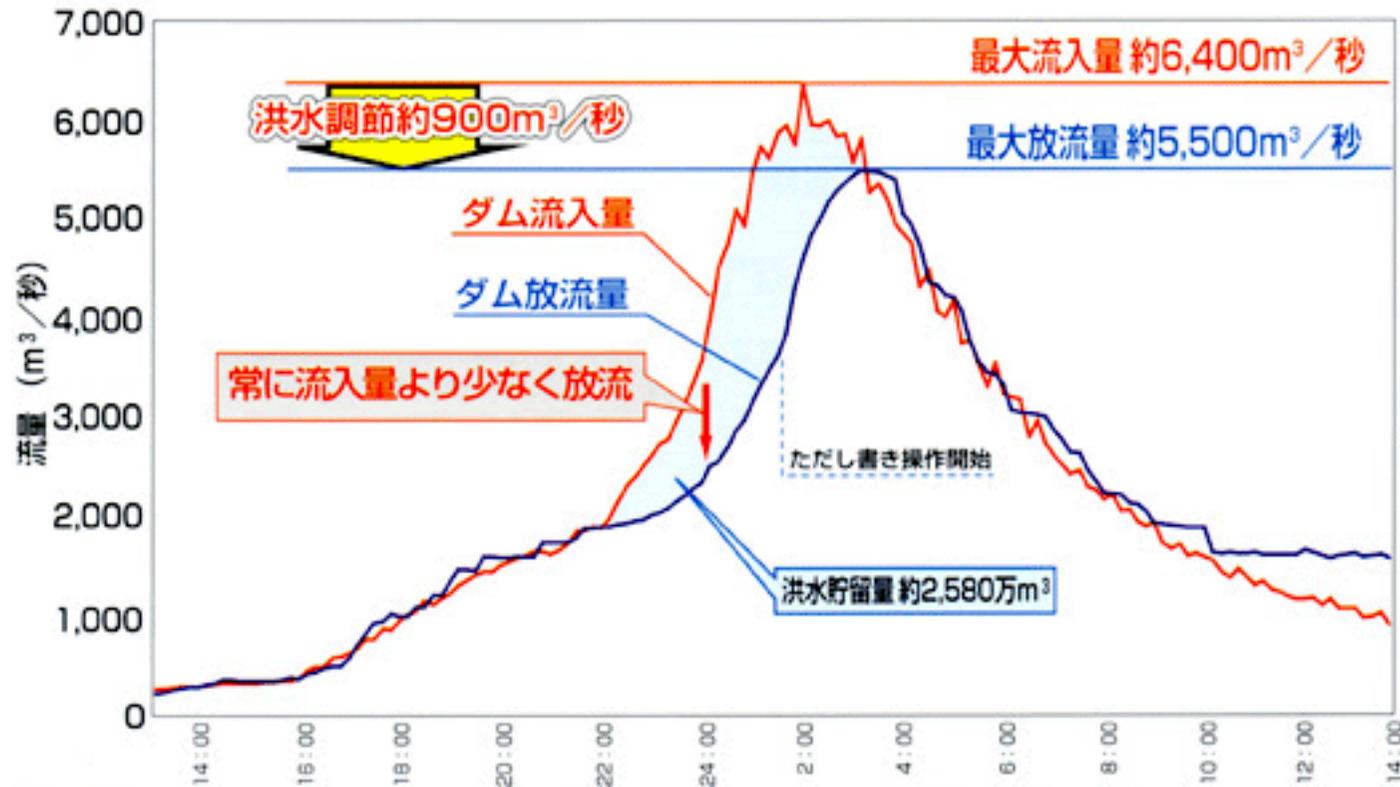
信濃川水系五十嵐川においては、笠堀ダムで730m³/s
 (最大流入量850m³/s 放流量120m³/s)
 を調節しており約750万m³の洪水を貯留し、下流の氾濫量の軽減に寄与。

総貯水容量 : 15,400千m³
 洪水調節容量 : 8,700千m³
 利水容量 : 5,700千m³
 堆砂容量 : 2,100千m³



洪水調節容量が満水になっても被害軽減に寄与！

事例2 北海道沙流川 二風谷ダム (平成15年8月 台風10号)



二風谷ダムの効果によって沙流川下流の洪水被害が軽減された。ダム上流では破堤があったが下流では一つもなかった。

ダムは危険な流木を捕捉することでも 洪水における被害軽減に寄与！

事例 北海道沙流川 二風谷ダム (平成15年8月 台風10号)



洪水の際、上流で流木が多数発生した。流木は、二風谷ダムに流れ込み、ダムは、約5万m³にも及ぶ大量の流木を捕捉する結果となった。

もしダムがなければ、流木は下流に流れ、橋梁や堤防を破壊する、また橋梁に引っかかって洪水があふれる原因となるなど、洪水被害を増幅したものと考えられる。